

産建教育常任委員会 議事録

日時：令和7年5月19日（月）
午前10時00分～11時10分
場所：第1・2委員会室

出席者

委員名 ☒委員長 大和 晴美 ☒副委員長 丸子 直樹 ☒委員 竹内 和彦
☒委員 高橋 真理子 ☒委員 伊藤 貞悦

会 議 次 第

1 開会宣告 【委員長】

2 連 絡

5月20日（火）午前10時00分 全員協議会（議会）
23日（金）午前10時00分 全員協議会（執行部）
30日（金）午前10時00分 全員協議会（議案配付）
6月 2日（月）正午 一般質問締め切り
午後 3時00分 議会運営委員会
6日～13日午前10時00分 令和7年第2回定例会

※ SideBooksの04_常任委員会 産建教育常任委員会 フォルダに開催通知及び次第を格納しております。毎日の確認をお願いいたします。

3 事 件

(1) 町漁業の現状について【産業観光課】

〔説明員：村上課長、菊地農林水産班長〕

○資料に基づき説明を受けた。

委員長：ただいまの説明について質疑はあるか。

竹内委員：年度別水揚げ量だが、秋鮭の水揚げがゼロとなっているが、今後の対策は。

課 長：漁協や県と協議中だが、海運や卵の孵化状況等を調査中だが、戻ってくるかは未定である。魚種の転換等を県、漁協と協議中である。漁が再開できるかは未定。

高橋委員：亘理町も同じ状況か。

課 長：直接は確認していないが、漁場が同じため、同様の状況と思われる。

高橋委員：はらこめし等も危惧されるが。

課 長：町内産でのほらこめしという意味では、影響が危惧される。

高橋委員：その分ホッキが回復しているようだが、取り組みの成果か。

課 長：その通りである。漁法の変更等もあり、漁獲量が増加した。

高橋委員：担い手の減少を上回るほど漁獲量が震災以前と比較しても増えているが、漁の効

率化や、今後も期待できそうか。

課 長：その通りである。

高橋委員：震災当時の大学教授が今もかかわっているのか。

課 長：未確認である。

伊藤委員：磯濱漁港に直接水揚げしている割合は。相馬や亘理に出しているとも聞くが。

課 長：手持ち資料にないので、確認させていただく。相馬等ほかの場所に出していると聞いたことがある。

伊藤委員：トラフグが増えていると聞いているが、水揚げ後販売できるルート等は確保しているのか。

課 長：実情を確認させていただく。

伊藤委員：サケが遡上してくる川があるのか。阿武隈川等に放流しても、阿武隈川に還ってくる状況と思われるので、川での取り組みはあるのか。

課 長：磯浜漁港のサケ漁は、沖合に出たの漁なので影響は少ない。

伊藤委員：漁にかかる負担金等はあるのか。

課 長：亘理単位で負担している。

伊藤委員：カニ等も獲れた後、ほかの場所に出荷しており、山元町産として売り出せる方策はないのか。

課 長：実情は確認させていただくが、町としてのブランド化等はまだの取り組みである。

高橋委員：シラス等も山元町で獲れて名取名産として売っていると聞いたが、もったいないと感じる。理由があるのか。

課 長：2～3月には確かに一定の水揚げがあるが、それが名取に行っているかは未確認。ガザミやシラスの行先を確認したい。

副委員長：漁業形態の確認だが、規模の大小によって、売上高の差異はあるのか。平均1300万円の売り上げが10者あるのか。一部が平均を押し上げているのか

課 長：12経営体それぞれが船を所有しており、それぞれに収入がある。内訳等は未確認。

副委員長：経営体の従事者数は。

班 長：12経営体で30名が働いている状況。

竹内委員：従事者数も含めた平均年齢は。

班 長：個別の年齢は把握していない。

竹内委員：地域おこし協力隊の取り組みとあるが、3年の任期中に漁業の基礎をつかんだ後、独立を想定しているだろうが、初期投資が相当かかる。補助金制度等の創設は。

班 長：7経営体について後継者がいない状況となっているため、新たに船をもって独立ではなく、後継者として継いでもらうイメージである。

課 長：支援策等は県、国等の制度を調査し、町として補助を加算する等の取り組みになると思われる。

高橋委員：ホッキ漁について、他の漁を兼ねることができないと聞いた。船の設備も専用と聞いたがそのあたりの支援は。

班 長：同じ船で複数の漁をしている漁師もいる。(刺し網等)

副委員長：売上量の推移について、単純に担い手が減っているから減少しているのか。

課 長：気候変動の魚種の変遷による減少ととらえている。

副委員長：秋鮭漁の不振が影響しているということか。グラフの数字は単純な売り上げ高か。

課 長：単純売上量である。

副委員長：そうだと1人当たりの収入に直すとかなり少なくなる。経費補助等しなければならぬと思われるが。町の水揚げが増える策として、町として1次加工等の設備はあるのか。

課 長：経費をどこまで税金計算に参入できるか、確認しつつ進めたい。加工場については、漁師が直接というのは現在行っていない。コロッケ等の加工はあるが、漁師が直接加工するのは漁師からも厳しいと話している。

伊藤委員：国や、東電の補償は現在もあるのか。

課 長：アルプス処理水の放流時に風評被害が発生し、漁協として東電に請求、補償を受けた話は聞いているが、直接現在も継続している事例はない。処理水の補償について現在請求すればある状況。

伊藤委員：当時は補償により生活できていたと聞いているが、現在はそういったものはないのか。

課 長：そういった補償はあると聞いている。しかし、漁師の話を聞くと、県境で福島県と補償の差があったと聞いている。

伊藤委員：養殖漁業を検討している漁師はいるのか。

課 長：そういった話は聞いている。

伊藤委員：12経営体はすべて個人という認識でよいか。

班 長：すべて個人である。

伊藤委員：そうだと地域おこし協力隊も、船主として操業するのは難しいのではないか。

班 長：物の引継ぎ等は未定だが、負担の少ないものになるように町としてもかかわっていききたい。

高橋委員：協力隊募集自体は8年度から始まるのか。

課 長：その通り。

高橋委員：他自治体で同様のケースはあるのか。

班 長：あると思われる。今年度はお試しやUターンに興味を持ってもらうことを前提に取り組みたい。

伊藤委員：危惧している部分は、任期終了後お金を含めた支援を行わなければ独り立ちは難しいと思われるので、しっかりとした制度が必要では。

課 長：今年度募集し、今後は県、国の支援制度を模索していきたい。

委 員 長：夢いちごの郷に出している漁師が減っていると聞いたが、メリット等はあるのか。

課 長：直売所としてはありがたく思っている。さばききれない魚を出品することで少しでも売り上げに貢献できていると考えている。

委 員 長：以上で質疑を終了する。

[10時55分終了 産業観光課退室]

(2) 優良市町村視察研修について

○新潟県内の6月定例会が日程的に折り合わず、8月5日～7日に変更

4 その他

次回開催（予定） 6月12日（木）午前10時00分～

5 閉会宣告 【委員長】